



ASIA IN RESONANCE

響きあうアジア 2019

応援の声



“日本語パートナーズ”は、グローバル人材の育成や世界への魅力発信につながる、本県にとっても大変重要な事業です。このような素晴らしい国際交流の機会を提供していただき、心から感謝しています。この事業が、今後も長く継続されますことを、大いに期待しています。

小川洋（福岡県知事・日本）



我が国と5年間にわたり協力してきた国際交流基金と”日本語パートナーズ”事業に感謝とお祝いを申し上げます。この事業により、生徒と教員の知識は豊かになります。“日本語パートナーズ”がインドネシアのほかの州にも拡大し、さらに多くの学校に事業の価値がもたらされることを願っています。

ハミッド・ムハンマド（インドネシア教育文化省 元初等・中等教育総局長・インドネシア）



東北地方にデザイナーが滞在する D00R to ASIA に参加でき、嬉しく思います。このプロジェクトは、デザインを通して地元企業の問題を解決するだけでなく、対話やアイデアの交換を通じて可能性を広げていくものです。未来に向けて刺激や変革を得られる面白さに満ちたプロジェクトです。

ダン・マトウティナ（グラフィックデザイナー・フィリピン）



言葉のわからない国で生活し、その人たちと共に働き、教える中で試行錯誤し、日本語や日本文化を外から見つめ直すことは、学生にとってはその後の生き方の土台を形作るような貴重な経験となっています。今後もこのような実のある交流事業が継続されることを願っています。

筒井佐代（大阪大学教授・日本）



国際交流基金アジアセンターが作って下さった出会いをきっかけに、アジアという“異国の地”ではなく、親戚のような身近であたたかな交流がいくつも生まれました。言語や文化は違えど、日本各地に、そうした新しい芽吹きが今後もたくさん生まれて欲しいと心から思っております。

鈴木歩（デザイナー・日本）



東南アジア2ヶ国5大学との連携を中心に2009年～2018年までに計52名の学生を派遣していただきました。本学の教員養成課程では、日本語教育に長けた小学校教員を育てています。アジアのますますの発展を願い、これからも意欲ある学生たちを送り出していきたいと思っています。

後藤ひとみ（愛知教育大学学長・日本）



「大学連携日本語パートナーズ派遣」により、日本語教育者を目指す学生が海外において自身の学習の成果を実践し実感することが出来ました。現地の学生・教職員の方々と直接交流できたことが、東南アジア各国と日本との相互理解の更なる深化に寄与することを願っております。

蓼沼宏一（一橋大学教授・日本）



大学では、人格の基礎を築くことが出来ます。「ことば」は、人間成長の最強のツールです。日本語母語話者として、日本語を学ぶアジアの人々と交わり、その助けとなる“日本語パートナーズ”派遣事業に参加することは、世界平和を創り出す者となる最良の基礎作りと言えるでしょう。

眞田雅子（京都ノートルダム女子大学学長・日本）



大学連携日本語パートナーズを通して、日本の大学生がアジアの国々の大学生と交流する機会を得ました。この交流をきっかけにアジア諸国での日本語教育や運輸業等の仕事へ進んだ学生もあり、その影響力は予想以上です。今後も日本語パートナーズ事業の継続を心から願っております。

幸田亮一（熊本学園大学学長・日本）



本学は「聖書」「国際」「園芸」の学びを礎に、アジアとの関係を大切にしたフィールドスタディにも注力しております。若い時に文化や歴史を異とする人々と触れ合い学びあう体験に勝るものはありません。貴センターのご活動の趣旨に深く共鳴し、益々のご発展をお祈りいたします。

大日向雅美（恵泉女学園大学学長・日本）



大学連携日本語パートナーズで多くの学生を海外の日本語教育現場に派遣してきました。この貴重な経験は学生を成長させるだけでなく、教職員の意識にも影響を与え、海外大学との信頼関係も構築されています。教育を通じて東南アジアとの関係が一層強固になることを願っています。

金子朝子（昭和女子大学学長・日本）



本学の多くの学生が、大学連携日本語パートナーズにより、貴重な学びの機会を得ています。将来、日本語教育に携わりたい学生がアジア諸国で異文化に触れ、日本語・日本文化を外から見直す経験を積み成長しています。今後も日本語パートナーズ事業のさらなる発展を願っております。

三井知代（神戸親和女子大学学長・日本）



大学連携日本語パートナーズプログラムで、これまで 16 名の学生が中国の広州市で教育実習に参加しました。そのうち、6 名がすでに福岡県内で日本語教師として教壇に立っています。国内外の日本語教育をいっそう盛り上げる人材が輩出できるよう、今後も手を携え進んでいきたいです。

中川正法（筑紫女学園大学学長・日本）



日本語パートナーズ派遣事業は、本学のスクールモットーである ‘LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD’ という 3L 精神とも深く重なり、日本語教育に従事したい学生にとって、アジアの人々と共に生きる貴重な体験の機会を提供してくださっています。今後とも、相互理解を促進する大きな働きでありますように。

大西晴樹（東北学院大学学長・日本）



成長するアジアのダイナミズムを直に体験できる「大学連携日本語パートナーズ」を通じ派遣された本学の学生は、帰国後も現地とのつながりを持ち続け、新たな関係に発展させています。こうした地に足のついた人材育成、交流活動を今後も支援してくださることを期待しております。

牧野丹奈子（桃山学院大学学長・日本）



本学は建学の精神の一つに国際主義を掲げており、本学での国際交流は英語圏からアジア圏へと広がり、年々アジアからの留学生が増えています。今後“日本語パートナーズ事業”を含め学生同士の交流が更に深まることを願っております。アジアセンターの活動に大いに期待しています。

飯田毅（同志社女子大学学長・日本）



“日本語パートナーズ”派遣事業埼玉県推薦プログラムの参加者は、「埼玉親善大使」として現地での本県の PR や現地の様子を県民の方々へ報告するなど、本県とアジアとの懸け橋として貢献しています。「真の国際人の育成」を目指す本県は、今後も当事業の継続を期待します。

大野元裕（埼玉県知事・日本）



“日本語パートナーズ”では、日本人の派遣前研修と ASEAN 諸国の日本語教師の方々の地方研修で、多くの方にご来県頂き大変嬉しく思います。今後も ASEAN 諸国の人々と日本人とが相互理解を深め、研修を受講された方々が懸け橋となり活躍していただくことを期待しています。

広瀬勝貞（大分県知事・日本）



日本語パートナーズ事業をはじめとする国際交流基金の諸活動は ASEAN 諸国のさらなる発展に貢献するものだと思います。響きあうアジア 2019 を通して、多くの人が東南アジアと出会い、よりよい未来につながることを願っています。APU も基金との協定の強化に努めます。

出口治明（立命館アジア太平洋大学（APU）学長・日本）



2018年1月にタイで日本語パートナーズの先生と生徒のみなさんにお会いしました。たくさんの笑顔が溢れていて、日本とアジアの架け橋になっている姿に感動しました。これからたくさんの子供たちに笑顔を届け続けてください！

May J. (歌手・アーティスト・日本)



日本語パートナーズは日本とベトナムの架け橋として学校、教師、生徒を支援し、大きな効果を挙げ、ベトナムの日本語教育にとって重要な役割を果たしています。この事業が今後も続き、ベトナムの日本語教育が促進され、文化の相互理解と親善が強化されることを願っています。

グエン・トー・チュン (教育訓練省国家外国語プロジェクト 2020 実行委員会副委員長・ベトナム)



日本語パートナーズ事業における学術的協力は、タイの教師、学生の日本語能力向上につながる素晴らしい効果を上げています。この協力関係が今後も継続し、日本とタイの友好関係が強まり、文化交流のすそ野が広がることを心より願っています。

コーソン・ペットスワン (上院議員・タイ)



国際交流基金アジアセンターが日本と東南アジアの関係を更に深める素晴らしい祭典を実施されることを心よりお祝いいいたします。この協力関係により、美しい文化と価値観の相互理解が深まります。互いの違いを通して共通点を発見し、より良い世界につながることでしょう。

ゾライダ・ムスタファ (マレーシアイスラム科学大学 日本言語文化センター長・マレーシア)



安田女子大学では2010年度以降毎年、大学連携日本語パートナーズ派遣等で学生を派遣させていただいており、学生の国際交流への意識を高めています。国際交流基金アジアセンターの本イベントが、日本と東南アジアの人々の交流をこれまで以上に活性化することを期待します。

瀬山敏雄 (安田女子大学学長・日本)



短期の日本語パートナーズ派遣事業に美作市出身の学生を含む美作大学の学生が参加し、ベトナムで現地の日本語学習者と交流し、貴重な体験をしたと聞きました。地域の若者が国際交流基金の活動を通じて、より国際的な視点を得られるような事業を期待しています。

萩原誠司 (岡山県美作市長・日本)



本学は国際交流基金との共催で「大学連携日本語パートナーズ派遣事業」で学生を派遣しております。この事業は海外の連携大学で外国人に日本語を教える体験をとおして、日本語教育の理解を深めることを目標としています。「響きあうアジア 2019」の成功を願っております。

井上寿一 (学習院大学学長・日本)



“日本語パートナーズ”は日本語で人の心をつなぐプロジェクト。アジアの学生は同年代の日本人と直接会話し、日本への関心が高まります。日本の学生はアジアの人々や文化との触れあいを通して、自国の文化を見なおし、自らの成長につなげます。これが未来へとつながりますよう。

山口宏樹（国立大学法人埼玉大学学長・日本）



日本語パートナーズ事業を通して、海外で日本語教育実習の機会を得た本学の学生たちは、その後国内外の日本語教育現場で活躍しています。本学のモットーである「学而事人」（学んで人に事（つか）える）を実践する貴重な場を与えてくれるこの事業が、今後も継続されることを願います。

畑山浩昭（桜美林大学学長・日本）



教室で学んだ事を現場で実践する機会を与えてくれる「日本語パートナーズ」は学生達にとって実に刺激的だ。自分が知っていることや学んだことが如何に限られたものかを実感し、多様な考え方や風習に興味を広がり好奇心は燃え上がる。若者よ、逞しく多様性と戯れよう。

宮内孝久（神田外語大学学長・日本）



“日本語パートナーズ”静岡県推薦プログラムは、ASEAN 諸国の日本語教育を支援し、草の根レベルで日本文化や静岡の魅力を伝える非常に重要な事業です。多様な価値観を理解するグローバル人材の育成に取り組む静岡県は、“日本語パートナーズ”事業の継続を強く望みます。

川勝平太（静岡県知事・日本）



毎年、“日本語パートナーズ”事業によって派遣される学生たちは、日本とベトナムの教育・文化の違いに驚かされているようです。アジアについて興味をもち、中にはアジアの日本人学校勤務まで考える学生もいます。今後もアジアと日本をつなげるこの事業が続くことを願っています。

浅利祐一（北海道教育大学釧路校キャンパス長・日本）



国境を越えサッカーで東南アジアと日本をつなぐ「ASIAN ELEVEN」、 「JapaFunCup」のコンセプトに共感し、「歌で人をつなぐ」 私たちも刺激をもらっています。今後も素敵な “日本と東南アジアの響きあい” が生まれるよう応援しています。

[【動画を見る】](#)

Little Glee Monster（ボーカルグループ・日本）



2015年にラオスの中学校で日本語教育が正式に開始されました。以来、アジアセンターは“日本パートナーズ”を派遣してきました。現在、ビエンチャンに3人の日本人が派遣されています。未来に向かって、今後もこのプログラムが継続されることを願っています。

シーサモーン・シティラートウォンサー（教育スポーツ省対外関係局長・ラオス）



アジアセンターは、私達の外国語教育プログラムにおける日本語教育のパートナーであり、感謝しています。本プログラムは教師や生徒が日本語の能力を伸ばし国境を越えて有意義な交流を行うことを支援しています。今後も関係強化に努めて参ります。ありがとうございました。Mabuhay!

レオノール・M・ブリオネス（教育大臣・フィリピン）



日本語パートナーズ派遣事業は、本学の建学の精神である『PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）』を体現する活動であり、本事業の意義に深く賛同いたします。今後も日本とアジアの架け橋となるよう、アジアでの日本語教育支援や文化交流活動を協働して推進して参りましょう。

松田武（京都外国語大学学長・日本）



“日本語パートナーズ”を始め、日本と東南アジアの将来を担う若者たちに、貴重な交流の機会をいただいていることを、大学人としてお礼申し上げます。今回の「響きあうアジア 2019」の成功、そして今後の“日本語パートナーズ”事業の継続・発展を心から願っております。

大城光正（京都産業大学学長・日本）



アジアの人々の日本への関心が一段と高揚しています。その対象も日本の文化や日本人の意識に転じています。日本にはアジアの人々を魅了する伝統文化と価値観が「悠久の時間軸」と共に連綿と継承されています。さあ、皆さんの番です！アジアの人々に日本の真髄を伝えて下さい！

佐藤圭一（国士館大学学長・日本）



摂南大学は7学部を擁する総合大学で、これまで全学で16名（派遣予定者を含む）の学生がタイとインドネシアに「パートナーズ」として派遣されました。彼らの海外での貴重な経験が「知的専門職業人」を目指す在学生にもよい影響を与えてくれています。

八木紀一郎（摂南大学学長・日本）



“日本語パートナーズ”派遣事業 大学推薦プログラムは、未来を担う日本と東南アジアの青少年たちが、互いに学び合う機会を提供する優れた取り組みの一つだと思います。学生と子どもたちとの交流によって、日本と東南アジアの相互理解がますます促進されることを願っています。

馬場善久（創価大学学長・日本）



“日本語パートナーズ”派遣事業によって東南アジア各地に派遣された学生は、現地の人々との交流を通じて、時には困難な状況に直面しながらも、それを乗り越え、人間的に大きく成長しています。交流事業であり、人材育成にも繋がるこの事業が今後も継続することを期待します。

林佳世子（東京外国語大学学長・日本）



日本語パートナーズへの参加を通じ、本学学生は東南アジアの異国の地でかけがえの無い経験を積むと同時に飛躍的な成長を遂げてきました。国の内外で活躍するグローバル人材の必要性は更に高まります。日本語パートナーズ事業の継続及び国際交流基金の更なるご発展を願っています。

高橋一男（東洋大学副学長・国際教育センター長・日本）



短期日本語パートナーズとして派遣された学生たちは、現地の人と触れ合う機会を通して大きく成長しました。東南アジアから来日される方も増える中、「響きあうアジア 2019」も、東南アジアの文化に触れ相互理解を深めることのできる素晴らしい機会になることを願っています。

桐生和幸（美作大学副学長・日本）



「育ての、文教」本学は人間愛の精神に基づいた教育を行うことで、人間愛に満ちた人材を育て、人間愛あふれた社会を育てることを目指しています。国や民族を超えることで、本学が目指す「育て」はさらに豊かになります。今後ともアジアセンターのサポート、よろしくお願いします。

近藤研至（文教大学学長・日本）



国際交流基金アジアセンターが、本学の学生に、長期間にわたるとても貴重な体験と学びの機会を提供してくれています。大学生の時でなければ得られないこの時間は、将来を考える上で決定的な時間となっています。今後も、学生の視野を広げてくれるこのような事業を続けてください。

田中優子（法政大学総長・日本）



アシスタントであれ自分が教える立場を海外で体験できる。他の海外体験プログラムにはない、ある意味贅沢な体験ができる事業です。学生は海外文化に触れ、教える立場で日本文化を省みるという非常に有意義な体験ができています。今後もこの事業が続けられることを願っています。

松尾太加志（北九州市立大学学長・日本）



日本語パートナーズに参加することは、将来日本語教育に携わりたい学生にとって非常に貴重な経験になっています。学生は、単に「日本語を教える」ということだけではなく、異文化に飛び込み、「どう日本を発信するか」を主体的に考える力を身につけています。

土屋恵一郎（明治大学学長・日本）



日本語パートナーズ事業は、皆さんにとって貴重な経験ができる場。現地の人々は日本の素晴らしさを知ることのできる場。両者が会うことにより生まれる新たな場は、21世紀の社会を切り開く可能性に満ち溢れています。新しいアジアと日本の関係ができることを期待しています。

郭洋春（立教大学総長・韓国）



東南アジアは多文明世界です。民族・言語・歴史等が異なる人たちが長い間にわたり共住し、日常生活を共生し、多くの異文化に共感し、認めあうやさしい世界です。

石澤良昭（上智大学教授・日本）



「ASIAN ELEVEN」という、国境・人種・性別・年齢を飛び越えたカラフルなサッカーチームのユニフォームをデザインする機会を与えていただき、とても感謝しています。選手の皆さんが世界中で情熱的なプレーをしてくれることを願っています！

増田セバスチャン（アートディレクター・日本）



アジアセンターが日本と東南アジア全体でこのような素晴らしいコラボレーションをしてくれて、感謝しています。今後も東南アジアと日本をつなげる事業を続けていくことを願っています。

シャリファ・アマニ（女優・マレーシア）



アジアセンターのサポートのおかげで、2019年7月に『サタンジャワ』を東京で上映できることになりました。『サタンジャワ』はライブコンサート付きのモノクロ・サイレントムービーで、私のキャリアの中でとても特別な作品です。この貴重な上映に是非来てください。

ガリン・ヌグロホ（映画監督・インドネシア）



“日本語パートナーズ”を通して、年齢に関係なくアジアの国々に飛び出して行って、そこで人々に出会う、その喜びを皆さんにも感じてほしいなと思っています。今後も“日本語パートナーズ”事業が継続していくことを心から願っております。

[【動画を見る】](#)

谷村新司（音楽家・日本）